

群馬県歯科医師会
「糖尿病に関する研修会（令和3年度8020県民運動推進特別事業）」
—日本糖尿病協会登録歯科医のための講習会—

歯周病は糖尿病の第6番目の合併症とされ、また、口腔感染症として全身疾患との関係も注目されています。最近では糖尿病患者の生活の質を維持する上で医師、歯科医師等、多職種による連携が重要になってきています。

そこで、今回、医師の立場から最新の糖尿病治療および、医科歯科連携のノウハウを伺うため、下記の通り研修会を開催させていただくことになりました。

記

- 日 時 令和3年12月19日（日）午前10時～12時
- 開催形式 ZOOMによるライブオンライン配信
(ネット環境がない方は群馬県歯科医師会館5階で聴講可能)
- 演 題 「病態と口腔機能から考える糖尿病と歯周病の相互関係」
- 対 象 歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士及び多職種関係者等
- 講 師 社会医療法人シマダ 嶋田病院 内科部長
佐賀大学医学部臨床教授 赤司 朋之（あかしともゆき） 先生
- 申込方法 下記のURLまたはQRコードにてお申し込みください。

URL: <https://forms.gle/RgxS7Czk8gteDhKj6>

QRコード:



- 申込締切 令和3年12月10日（金）

■ 講演抄録:

歯周病を有すると、生体にとっては歯周菌が持続的な抗原刺激となり、インスリン抵抗性を少しずつ確実に亢進させることとなる。インスリン抵抗性が亢進し、その影響で糖尿病が悪化すると、更なる悪循環が惹起される。

糖尿病のコントロール不良の状態が続くと糖尿病性自律神経障害に伴う唾液分泌低下が原因の口腔内自浄作用の低下が生じる。歯周病が進行すると、残存歯の減少に伴う咀嚼障害で生じる食物繊維の摂取困難が原因の食後高血糖が発生する。また歯周病の悪化に伴う味覚障害は食事の味付けを濃くし、塩分摂取量を増加させてしまうため、糖尿病性腎症の悪化を引き起こし、透析増加のリスクにもなり得る。歯の喪失や味覚低下などの口腔機能障害が原因の栄養障害はオーラルフレイルを惹起し、オーラルフレイルは更なる味覚障害や栄養障害を引き起こす。

このような悪循環をくい止めるためには、歯科と医科がそれぞれの病態を理解し、しっかりと連携して治療にあたることが重要と考えられる。歯科と医科がどのような連携をとり、どのような活動をしていくことが望ましいと考えられるかを、内科の立場から提案したい。

■ 講師履歴

1991年 九州大学医学部卒業 1995年 九州大学総合診療部医員
1996年 九州大学第一内科医員 1997年 国家公務員共済組合連合会浜の町病院
2003年 ハーバード大学ジョスリン糖尿病センターPostdoctoral Fellow
2006年 医療法人社団シマダ嶋田病院
2012年 佐賀大学医学部臨床教授併任 現在に至る